

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

共に生きる豊かな福祉社会のために

朝日新聞厚生文化事業団は

「子ども」「障害のある人」「高齢者」を柱として
社会福祉事業に取り組んでいます。



社会福祉法人



朝日新聞厚生文化事業団

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

東日本大震災救援事業

●朝日のあたる家

岩手県陸前高田市に建てた地域交流拠点「朝日のあたる家」が、15年2月に開設2周年を迎えました。大小4つのホールに和室やキッチン、グランドピアノが備えられ、認知症カフェや講演会、コンサートなど、さまざまな催しを開いています。



●こども応援金

震災で両親を亡くした子ども(孤児)に、「自由に使えるお金」として、直接、渡しています。未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生200万円、高校生相当年齢が150万円。これまでに対象と見込んだ220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈りました。

●グリーフサポート

東日本大震災などで大切な人と死別した子どもたちの気持ち(グリーフ)などに寄り添う支援です。12年にNPO法人「子どもグリーフサポートステーション」とともに仙台駅前に施設を開設し、サポートプログラムを実施しました。米国ハワイ州でグリーフサポートに取り組む「キッズ・ハート・ツウ・ハワイ」のシンシア・ホワイトさんらを招いて福岡市や札幌市で講演会を開いたほか、岩手県や宮城県、福島県の仮設住宅を訪問したり、トレーナー養成研修を行ったりもしました。



※「子どもグリーフサポートステーション」との協働は2014年末を持って終了しました。





● グリーフキャンプ

静岡県の朝霧高原で2回、グリーフキャンプを開催しました。東日本大震災で両親を失った小、中学生20人が参加。ハイキングやアイススケート、野外炊事などのキャンプ生活を楽しみました。

※当事業は14年度で終了しました。



● 被災地ピジット

バイオリニストの千住真理子さんや川畠成道さん、歌手のおおたか静流さん、ミュージシャンでマジシャンの大友剛さんと共に、青森県、宮城県、岩手県にある仮設住宅や学校、保育園、高齢者施設など計22カ所を訪問。被災地の方々に憩いのひとときを届けました。



● 東日本大震災救援事業へのご寄付、 14年度は約2300万円

14年度に東日本大震災救援事業に寄せられたご寄付は、2359万9869円に上りました。東日本大震災救援募金も含めたご寄付の累計は14年3月末現在で約9万件、総額36億9625万8211円となりました。



子どもの福祉



●高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭から大学や専門学校へと進学する、15年春卒業の高校生24人に、最大100万円、計約1000万円を贈呈しました。大学の入学金などに充てられます。



●こどもっと

社会的養護の当事者グループの全国ネットワーク「こどもっと」を10年4月に結成。情報交換などを行っています。頼れる親族も帰る場所もない彼らの多くに、あるべき社会的養護を実現するには、当事者団体が力を合わせ改革の核となることが期待されます。社会的養護の高校生たちの中から若いリーダーを育てることを目的とするピア・キャンプを、富士山麓で10月に実施しました。



●子どもシェルター

親による虐待や養育放棄などで帰る場所がなくなった子どもたちを、一時的に保護する施設「子どもシェルター」に関するシンポジウムを新潟市で開催。約130人が参加しました。



●朝日夏季保育大学

保育従事者の技術と教養の向上を目的に1954年に始めた朝日夏季保育大も61回目。14年度も長野県諏訪市で開催し、保育関係者など約900人が参加しました。



●親子で楽しむクリスマスコンサート

恒例となった「親子で楽しむクリスマスコンサート」を東京・有楽町朝日ホールで開催。家族連れをはじめ約500人がクリスマスのひと時を楽しみました。



高齢者の福祉



●認知症カフェ

認知症でも、住み慣れた家や街で暮らしていける地域づくりを目指して、「認知症カフェ」を全国に広める取り組みを行っています。その一つとして、静岡県南伊豆町で廃校となった小学校を借りて15年2月「認知症カフェ あまなつ」を、地元のNPO法人風楽(ふうら)とともに開設しました。

●「人生の最終章」講演会

「住み慣れた町で人生の最期を迎える」をテーマにして、連続3回の講演会「自分らしい人生の最終章とは？」を大阪と東京でそれぞれ開催しました。

●「認知症と成年後見制度」講演会

高齢者が認知症になった場合、本人に代わって契約や財産などの管理をしてもらう「成年後見制度」について学ぶ講演会「おひとりさまの認知症と成年後見制度」を、東京と大阪市で開催しました。大阪会場に約160人、東京会場には約210人が参加しました。

●生き方、逝き方ガイドブック

自分の親や伴侶、そして自分自身が最期を迎えるとき、どうすれば本人らしく、望むかたちでの「逝き方」ができるのか。監修の新田國夫医師の経験を踏まえて整理した新刊『生き方、逝き方ガイドブック』を刊行しました。108ページ、1296円(税込)。



●高齢期の豊かなくらし研究会講演会

「高齢期の豊かなくらし研究会」とともに、「認知症ケアとダンスセラピー」「大介護時代の今」「元気なときに死を語り合おう」という3つをテーマにした講演会を大阪市で開催しました



●ゆうゆうビジット

高齢者施設に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」は6年目を迎えました。14年度は、全国の特別養護老人ホームなど16カ所を訪問しました。

障害のある人の福祉

●自閉症カンファレンス

約1000人が参加する、国内最大級の自閉症の支援会議「自閉症カンファレンスNIPPON」を早稲田大学で8月に開催。米ノースカロライナ大学の元TEACCH部部长ゲーリー・メジボフ教授ら3人を招きました。



●手話によるスピーチコンテスト

99人の応募者から選ばれた高校生10人が、手話と音声を同時に使ったスピーチを披露する「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。1位に輝いた高知県立安芸高校3年坂本龍成さんは、「聴覚障害者のみなさんが、疎外感や孤独を感じることなく、安心して暮らせる社会になってほしい」と力強く訴えました。



●高次脳機能障害講演会

交通事故や病気で脳を損傷し、日常生活の中でさまざまな問題に直面している高次脳機能障害の人たちを支援する講演会活動に取り組んでいます。14年度は鳥取、熊本、千葉の各県で講演会を開催しました。





●うつ病の講演会

うつ病への理解を深め、うつ病の人を支える仕組みを考える講演会を盛岡、東京、大阪で開催し、合わせて約530人が参加しました。



●視覚障害の大学生への奨学金

視覚に障害がある大学生に奨学金を貸与する「聖明・朝日盲大学生奨学金」。14年度は小学校教員、精神保健福祉士、NGO職員、理療科教員を目指す4人の大学生が選ばれました。



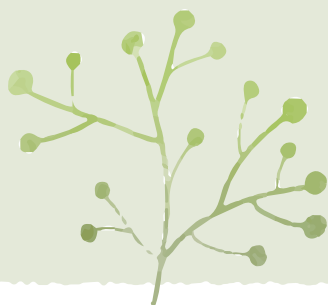
●障害者歩くスキーの集い

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第35回障害者歩くスキーの集い」を札幌市の滝野すずらん丘陵公園で15年1月に開催。1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4コースに分かれ、計174人が参加しました。

●朝日九州車いす

バスケットボール選手権大会

第35回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が12月、熊本県嘉島町の町民体育館で開かれました。九州・沖縄の11チームがトーナメント方式で戦い、「佐世保WBC」（長崎）が2年連続の優勝を果たしました。





●自殺防止事業

厚労省研究班の発表では、ギャンブル依存症の疑いがある人は推計536万人。一年のうちに自殺を考える割合はギャンブル依存者だと一般人と比べて約10倍になるといわれています。精神科医で作家の帚木蓬生さんの講演会「病的ギャンブリングの現状と対策」を10月に福岡市で開催しました。



●アサヒベビー相談室

育児に悩む親のために、デパート内に無料の育児相談室を設け、医師や栄養士などの専門家が、病気や発育、栄養などの相談を行っています。大阪市をはじめ、大阪府高槻市や大津市にある三つのデパートで実施しています。

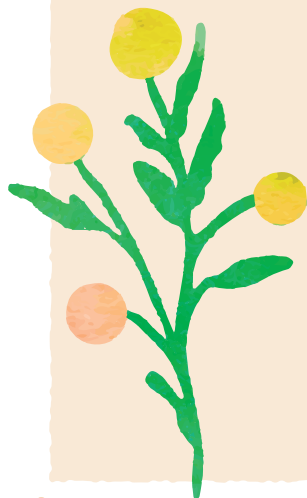
●遺贈・遺言セミナー

“社会貢献としての遺贈”について学ぶ「遺贈・遺言セミナー」を東京、大阪、名古屋、福岡で、それぞれ開催しました。遺贈に詳しい中山二基子弁護士や石井将弁護士が、遺言がなくて困った人の実例や遺言を書くときの留意点などについて話しました。



●広島土砂災害救援金

14年8月に広島で起きた土砂災害で死者74人という、大きな被害が出ました。被災者の方々のため、当事業団と朝日新聞社は8月26日から1ヶ月の間、救援金の呼びかけを行いました。お寄せいただいた救援金は1871件、総額3033万6587円に上り、全額を日本赤十字社広島県支部に渡しました。



チャリティー事業



●朝日チャリティー美術展

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京で開催。文化勲章受章者や人間国宝を含む各界の著名人ら約2800人にご協力いただき、販売作品は約3600点に上りました。14年度は、東京展が90回目となることを記念し、日本画家の千住博さんや中島千波さん、洋画家の絹谷幸二さんらのトークセッションも開催しました。



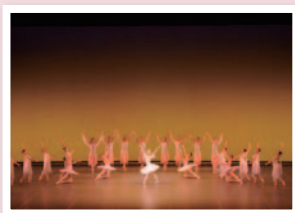
●メサイア演奏会

戦後間もない1951年に、戦災で両親や家族を失った子どもたちや生活困窮者の支援を目的に始まった「メサイア・チャリティーコンサート」も64回目に。東京藝大招聘(へい)教授の高関健さんの指揮で「メサイア」全曲を披露、来場者約2300人を魅了しました。



●ダンス、バレエ、能、演奏会など

茶道8流派によるチャリティー茶会を名古屋で12月に開催。北九州市でも、チャリティー大茶会を9月に開きました。大阪では、琴、三絃、尺八の邦楽各派社中が出演する「各派合同三曲演奏会」、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「洋舞合同祭」、能楽師や狂言師が一堂に集まる「歳末助け合い協賛能」や各流合同茶会などを催しました。東京でも、長唄演奏家の集まり「杵勝会」のチャリティー長唄演奏会などが行われました。



朝日福祉ガイドブック・DVDのご案内

◆朝日福祉ガイドブック 【梱包送料】1冊180円、2～3冊250円、4～5冊300円(6冊以上はお問い合わせください)

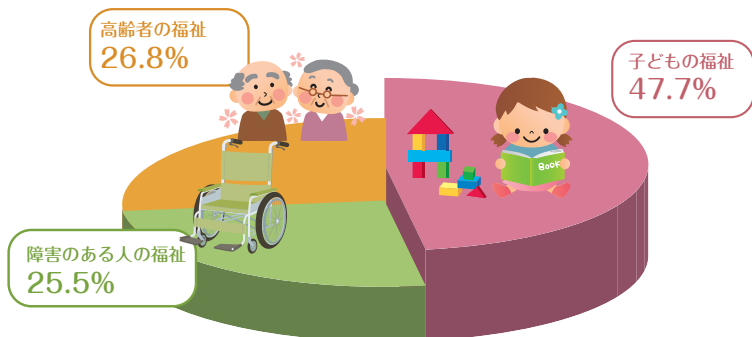
『生き方、逝き方ガイドブック』 (1,296円)	どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちなこの命題を新田國夫医師とともに整理しました
『みんなのうつ』 (1,080円)	うつ病の「分かりにくさ」を整理した入門書。大野裕さん監修。自分や家族、周りの人が「うつ病かな」と思った時に開いてください
『認知症とともに』 (1,080円)	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでをイラスト入りで分かりやすく解説
『なるほど高次脳機能障害』 (1,296円)	「見えない障害」と言われる高次脳機能障害の診断、退院、リハビリ、社会参加などを網羅し、多数の事例を交えて解説
『自閉症の人たちを支援するということ』 (864円)	TEACCHプログラムの最高責任者、米ノースカロライナ大のメジボフ教授が自閉症とプログラムの内容を分かりやすく解説
『自閉症のひとたちへの援助システム』 (540円)	TEACCHプログラムの実践例を紹介し、日本でいかに生かすかを提案
『100%あたらくん』 (648円)	自閉症のあたらくんが大活躍の4コママンガ。自閉症の理解に役立ちます

◆朝日福祉ガイドDVD 【梱包送料】7巻まで510円(8巻以上は800円)

『自閉症の人が求める支援』 <small>全3巻セット価格10,692円 各巻4,320円</small> 自閉症の人が自閉症のまま、学び、発達し、健康に幸福に生きていくための、それぞれの個性に合わせた支援のあり方を映像化。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。	『自閉症の子どもの評価 生活スキル編』 <small>全4巻セット価格18,144円 各巻4,860円</small> 自閉症の人を正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。
『自閉症の人が見ている世界 ～自閉症の人を正しく理解する』 <small>全3巻セット価格10,692円 各巻4,320円</small> 自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)、第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)、第3巻「13人のエピソード」(85分)。	自閉症児の治療教育シリーズ <small>(米国ノースカロライナ州のTEACCHプログラム) 各巻3,024円</small> 「自閉症児の明日のために TEACCHのねらいと考え方」(49分)、「親のためのTEACCHプログラム」(67分)、「教師のためのTEACCHプログラム」(69分)、「青年期・成人期のTEACCHプログラム」(55分)。
『自閉症の子どもの自立課題』 <small>全3巻セット価格13,608円 各巻4,860円</small> 「自分ではできるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。	お申し込み・お問い合わせ ご希望の方は電話がファクス、電子メールで下記までお申し込みください(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)。 朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 tel: 03-5540-7446 fax: 03-5565-1643 e-mail: guide@asahi-welfare.or.jp ホームページ(http://www.asahi-welfare.or.jp/)からもお申し込みができます。

皆様からのご寄付は以下のような事業に使われます。

(2014 年度社会福祉事業費用、東日本大震災救援事業を含みます)



この他 公益事業としてガイドブックや DVD の発行
福祉啓発事業なども行っています。

事業総額 1 億 442 万 9 千円

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付で実施されています。
寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上。匿名扱いもできます)。
税法上の優遇措置があります。

ご寄付やお問い合わせ

- 郵便振替 「寄付専用」郵便振替用紙をお使い下さい。お手元がない場合は、当事業団が払込料金を負担する振替用紙をご請求ください。または、**口座番号 [00130・1・9166]**(加入者名=朝日新聞厚生文化事業団、通信欄に「寄付」、領収書不要の場合もそのように明記)までご送金下さい。
- 銀行振り込みやクレジットカードによるご寄付もできるようになりました。事業団ホームページからご寄付の手続きができます。
- 現金受付 朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口(平日午前10時~午後5時30分)や朝日新聞の各総局など

※寄付金控除 当事業団へのご寄付は個人の場合、所得控除と税額控除の二つの寄付金控除のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。



本部(東京)

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03(5540)7446 FAX 03(5565)1643

大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06(6201)8008 FAX 06(6231)3004

西部事務所

〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
TEL 093(563)1284 FAX 093(563)1287

名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL 052(221)0307 FAX 052(221)5453

「朝日の社会福祉 2014年度の活動」

2015年7月発行

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団